

提 供 日 2026/09/08

タイトル 国際ワークショップ「アフリカ遊牧民の生の経験としての人新世：
気候変動ナラティブへの関係論的アプローチ」取材対応のご案内

担 当 静岡県公立大学法人 静岡県立大学
国際関係学部 湖中真哉



静岡県立大学記者提供資料

国際ワークショップ「アフリカ遊牧民の生の経験としての 人新世：気候変動ナラティブへの関係論的アプローチ」 取材対応のご案内

この度、本学の研究チームは、国連「放牧地と遊牧民の国際年（IYRP 2026）」を記念してハイブリッド形式で国際ワークショップを開催します。メディア各社様の取材を歓迎致します。同記念年登録イベントのうち、唯一日本で開催されるイベントです。

本ワークショップには、米国2名、英国2名、オランダ2名、イタリア1名、ドイツ1名、ケニア1名、日本3名の研究者が参加し、本学からは湖中真哉教授と村橋勲助教が報告を行います。会議は英語で行われ、通訳はつきませんが、インタビューなどは日本語でご質問いただければ、通訳致します。写真撮影も可能です。

遊牧民に関わる国連の動向を主導してこられたオックスフォード大学のアリエル・アハーンさんやFAOで仕事をされていたセヴェリオ・クラトゥリさんも参加されます。

会議のみならず、世界の遊牧民が置かれている現状、遊牧民と放牧地が地球環境の持続性に果たしている意義、SDGsとの関連、気候変動の影響などにつきまして、幅広いトピックに関するインタビュー・取材に対応させていただきます。

記

- ◆日 時 2026年9月21日（月曜日・祝日）、22日（火曜日・祝日）
10時00分～17時00分（日本標準時）
- ◆会 場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 1001-2号室
- ◆内 容 アフリカの遊牧民自身は気候変動をどのように経験しており、現地では一体何が起きているのか、また、気候変動にかかわるこれまでの遊牧民と放牧地の政策はどのように分析されるのか。その両方を通じてアフリカ遊牧民に対する望ましい政策とはどのようなものなのかを考えます。
- ◆参加者
 - 招聘者
湖中真哉（静岡県立大学）
 - パネリスト（対面参加）
湖中真哉（静岡県立大学）
サラ・デ・ウィット（ライデン大学）
サラ・ペトロリーノ（ライデン大学）
サヴェリオ・クラトゥリ（『Nomadic Peoples』誌編集長）
村橋勲（静岡県立大学）

橋本栄莉（立教大学）

ピーター・D・リトル（エモリー大学）

エメリー・ロー（カリフォルニア大学バークレー校）

ラマ・ハッサン（タフツ大学／ナイロビ大学）

○パネリスト（オンライン参加）

ディエゴ・アウグスト・メネストレイ・シュヴィーガー（ケルン大学）

アカシア・リーキー（オックスフォード大学）

○ディスカッサント[指定討論者]（対面参加）

アリエル・アハーン（オックスフォード大学）

◆その他

詳細につきましては、以下ウェブページをご参照ください。プログラム、タイムテーブルもそこからご覧いただけます。

■国際ワークショップご案内ウェブページ

<https://ir.u-shizuoka-ken.ac.jp/climateafurica/2026/07/10/hybrid-international-workshop-the-anthropocene-as-lived-experience-by-african-pastoralists-a-relational-approach-to-climate-change-narratives/>

■（参考）静岡県立大学ニュース国際関係学部教員が国連関連会議に招待講演者として登壇（この会議についても取材をお受け致します）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news/202260828/>

【本件に関するお問い合わせ先】

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 湖中真哉

メールアドレス konaka（ここに@を入れる）u-shizuoka-ken.ac.jp